

第38回 地域療育講習会

看護担当科長 山本和佳子

— 重症心身障害児者との「わかりあう」コミュニケーション —

令和8年2月13日（金曜日）、地域療育講習会「府中療育センターにおける重症心身障害児者とのコミュニケーション実践報告」を開催しました。

当日は、公認心理士、保育士、看護師、言語聴覚士など、さまざまな部署・職種の職員が登壇し、日々の支援の中で大切にしているコミュニケーションの視点や実践について報告が行われました。公認心理士からは「その人らしさを支えるコミュニケーション」、通園保育士からは「心に寄り添う保育」、通所保育士・看護師からは「通所におけるコミュニケーション」、病棟保育士からは「タッチケアを通じたふれあいのコミュニケーション」、病棟看護師からは「言葉を越えたコミュニケーション」、言語聴覚士からは「乳幼児期におけるSTのかかわり」について、それぞれ具体的な事例を交えて紹介されました。

障害のある方の「伝える力」を引き出す工夫や、気持ちを読み取るための視点、思い込みによるコミュニケーションを防ぐためのポイントなど、日々の支援にすぐに活かせる内容が多く共有されました。また、言葉に頼らない関わりを通して、どのように相手と「わかりあうか」を考える貴重な機会となりました。

多職種それぞれの専門性を活かしながら、重症心身障害児者一人ひとりに寄り添うコミュニケーションの大切さを、改めて確認する講習会となりました。



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第578号 発行日 令和8年2月28日

医療安全推進ワーキングチーム(推進WGチーム)紹介

医療安全推進WGチーム 戸室直子

推進WGチームは、府中療育センター医療安全管理委員会の下部組織です。診療部長、12分科会代表、専任リスクマネージャーで構成され、院内のインシデント・アクシデント報告の分析や問題検討、予防策の立案、既存対策の見直しなどを行っています。また、年2回、医療法に基づく医療安全研修を院内感染制御チームと合同で開催しています。

《医療安全推進の取り組みテーマ》

2025年度のテーマは「確認は医療安全の第一歩」です（推進WGチーム策定、管理委員会承認）。ポスターが各部門に掲示されていますのでご確認ください。インシデント発生要因の約3割は「確認を怠った」です。指差呼称で直前確認を徹底し、エラー防止に努めましょう。



《医療安全対策自主管理チェックラウンド》



推進WGチームは、2月の都立病院医療安全週間に合わせて、院内各部門の安全ラウンドを実施し、施設全体の安全管理状況を評価しています。各部門では、まずチェックリストを用いて自主点検を行い、安全環境の整備と周知を行った上で評価を受けています。この活動は、職員一人ひとりの安全意識を高め、院内に安全文化が根付くことを目的として取り組んでいます。

センターの利用者の安全は職員に委ねられています。医療安全向上には、日々の継続した取り組みと全職員による協働が欠かせません。今後も推進WGチームは組織的連携を図り、安全で信頼される医療環境づくりに取り組んでいきます。ご協力よろしくお願いたします。

2B病棟 お楽しみ会

2 B病棟 福祉職

2月のお楽しみ会は、節分にちなんで「鬼退治ゲーム」を多目的ホールで実施しました。皆で作成した鬼の絵を貼り付けた風船や大きなサッカーボール、音の出るボールなどを床に転がし、マジックハンドや虫取り網などの道具を使って相手陣地により多く入れた方が勝ちとしました。

ゲームの最後には得点を左右する運命のサイコロ転がしを行い、最後までハラハラドキドキの展開となりました。広い会場で実施したため声や音の反響が大きく、とても賑やかな雰囲気の中で職員と一緒に縦横無尽に動いて白熱し、盛り上がりました。手足を動かして真剣な表情で相手陣地に送り込む方、大きな声で笑っている方、手拍子をして応援する方など思い思いに楽しむことができました。



3C病棟 お楽しみ会

3 C病棟 福祉職

洗足学園音楽大学のアンクルン部【たけのこ】の皆さんをお招きし、演奏会を行いました。アンクルンとは竹で作られたインドネシアの打楽器で、民族音楽や童謡、歌謡曲など様々なジャンルの曲を演奏していただきました。手拍子に合わせて腕を動かしたり、好きな曲で笑顔になったり、感動して涙を流したりと利用者のいろんな表情を見ることができました。一緒に歌える曲が多く、アンクルン部の皆さんと職員で歌い、利用者はそれに合わせて表情を緩ませ楽しい時間を過ごすことができました。

アンクルンから響くカタカタという竹の音色と楽曲の選択が相まって、どこか懐かしく心温まる素敵な演奏会となりました。



特別講演会 公文和子先生講演会に寄せて

小児科部長 栗原亜紀

昨年2025年10月30日に、公文和子先生の講演会を府中療育センター多目的ホールで開催いたしました。公文和子先生は、現在ケニアで「シロアムの園」という障がい児支援施設を運営されている小児科医です。NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」や毎日放送の「情熱大陸」で公文先生のケニアでの奮闘を密着取材して放映されましたので、ご存じだった方も多いかもかもしれません。

「ともに生きる～ケニアの障がいのある子どもたちが奏でる素敵なのちの話～」というテーマで講演をお願いしましたが、冒頭「Q1. もしあなたが音楽家としたら、今はどんな音を奏でていますか? Q2. 皆さんの日々の生活の中で、周りの人たちが奏でる音が聞こえますか?」公文先生から問いかけがあり、お話が進んでいきました。途中、ギフトくんとムハンジ理学療法士さんの物語では、ムハンジさんは理学療法士として提供できること以上に、ギフトくんと愛情や喜びに満ちた時間を共に過ごし、ギフトくんの中にある愛情や素晴らしさを皆に見せてくれたと感じました。

私たちは、自分の周りの人たち（利用者や仲間のスタッフあるいは自分の家族）が奏でている音を聞いているのでしょうか?そして、周りの人たちの音に自分の奏でる音がどんな風に混ざり合って、一体どんなハーモニーを奏でているのか、感じられているのでしょうか?毎日の忙しい業務の中で、時間を作るのは大変だけれど、ふと立ち止まって耳を澄ましてみることの大切さをあらためて丁寧に伝えてくれた講演会でした。当日大好評でしたシロアムの園のお母様方の手作り品は、今後センター祭のバザーでも出店できないか検討中です。

遠く離れたケニアの空の下、シロアムの園で公文先生は今日も障がいをお持ちの方々と日々を過ごされています。貴重な日本での滞在時間を割いて当センターにおいでくださり、病棟もまわって、ご講演くださった公文先生に心から感謝申し上げます、わたしたちも笑顔で頑張りたいと思います。

